



TITLE:

寶曆ノ豫算

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 寶曆ノ豫算. 經濟論叢 1917, 4(1): 129-131

ISSUE DATE:

1917-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127141>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號一第 卷四第

行發日一月一年六正大

論說

官業問題ニ就キテ(一).....

法學博士

神戸正雄

體質廢頽問題(二).....

法學博士

財部靜治

戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(二完).....

法學博士

戸田海市

消費ニ關スル學說ノ發達(二).....

.....

瀧本誠一

經濟心理學ノ組織的研究(二).....

.....

米田庄太郎

米券倉庫ヲ論ス(二完).....

法學士

河田嗣郎

雜錄

賤民名稱考.....

文學博士

新村出

女ニ子ヲ生マス政策.....

.....

米田庄太郎

原始亂婚ニ就イテ.....

文學士

高田保馬

寶曆ノ豫算.....

法學士

本庄榮治郎

歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(二完).....

.....

山本美越乃

經濟雜話(七).....

法學博士

田島錦治

戰後ニ對スルニ大準備.....

法學士

河田嗣郎

新著紹介及ビ寄贈書目

實曆ノ豫算

本庄榮治郎

(一) 我國ニ於テ歲計豫算ノ備リタルハ明治六年ノコトトス。即チ同年六月太政官番外達ヲ以テ明治六年歳入出見込會計表ヲ公布セリ。此ノ見込會計表ハ單ニ明治六年度ノ收支ヲ概算シタルモノニシテ、其目的ハ主トシテ當時政府財政ノ安固ナルコトヲ中外ニ公示スルニ在リシト雖、爾後各官廳ヲシテ此ノ表ニ倣ヒテ毎年費用ノ概算表ヲ作り、之ニ據リテ收支ヲナサシメタルヲ以テ我邦歲計豫算制度ノ濫觴ハ茲ニ存スルモノトイハザル可ラス。(1)

(二) 徳川時代ニアリテハ、モトヨリ今日謂フ所ノ豫算制度ナルモノ存スルコトナシ。即チソノ得ル所ノ收入ニ應ジテ隨時支出ヲナスモノニシテ、財政潤澤ナル場合ニハ餘剰ヲ生シ、窮乏ノ際ニハ不足ヲ生スルコト往々ニシテ然リ。吉宗時代ニアリテハ前代ノ財政困難ヲ救フカ爲メニ節約ノ令ヲ布キ、參觀交代ノ制度ニ變革ヲ加ヘテ上ケ米ノ制ヲ設ケ、貨幣ノ改鑄ヲ斷行シ、殖産

興業ノ道ニ努メ財政ノ整理ニ盡ス所多カリシガ家重ノ代トナリテ財政ハ再ヒ紊亂シ、ソノ窮乏ニ苦シムニ至レリ。實曆五年二月、勘定奉行及同吟味役ニ對スル令ニ曰ク(2)

『御勝手向 御先代御定式モ相立候處、何トナク相ユルミ、一兩年ハ別而御入用相増御取箇ハ相減候、畢竟御勘定奉行共取斗ユルク、吟味行届不申故諸役所モ相ユルミ候故之儀ト思召候、依之御勘定所取斗ヒ御代官勸方等萬事之儀、神尾若狹守相勤候節之通心得可申候。年來 有徳院被遊御世話候儀共相破リ甚如何成事ニ思召候。向後急度心懸ケ致出情可相勤候。此段可申聞官被仰出候』

ト。見ルヘシ、吉宗ノ遺制額レテ財政困難ニ陥リシコトヲ。文中ニ云フ所ノ神尾若狹守ハ春央トイヒ吉宗ノ時勘定奉行ニ登庸セラレ、勘定吟味役堀江荒四郎ト協力シテ財政整理ニ力メタルノ士也。(3)

同年同月、勘定奉行一色周防守、日付稻生下野守、正木大膳、勘定吟味役疋田庄九郎、横山傳右衛門ニ對シ『諸向相ユルミ一兩年別而御入用相増候ニ付定式之内減候而書出可申候』ト令シ、勘定所ニ立合ヒ奉行掛之者取締等ヲ糺シ以テ國用

(1) 明治財政史第三卷139頁。明治史第二編財政史(太陽増刊)13—14頁
(2) 以下本節引用ノ法令ハスベテ實曆令典永鑑卷一六ニ據ル。但シ徳川十五代史第九編47頁以下。徳川禁令考二帙276頁三帙255頁以下
(3) 池田晃淵、徳川時代史下巻243頁

費途省減ノ事ヲ司ラシム。同年四月ニ至リ勘定奉行及ヒ勘定吟味役ニ對シ次ノ如キ令ヲ發セリ

『金二千兩餘』	町奉行方
金八百兩餘	御船手
金八百兩餘	大阪御船手
金千五百兩餘	大阪御城内外御修復御入用
金七百兩餘	殿府御城内外御修復御入用
金二百七十兩餘	甲府御城内外御修復御入用
金百兩	京都橋御修復御入用
金二百兩	大阪橋御修復御入用
金千七百兩餘	神寶佛具裝束類
金二萬兩	元方御納戸
金一万五千兩	拂方御納戸
金八千兩	西丸御納戸
金一万三千八百兩	御賄方
金六千二百兩	西丸御賄方
金七千兩	御作事方
金六千兩	御疊方并備後表御買上代共
金一万兩	小政請方
金千五百兩	御材木方
金五千兩	御細工所

先達而被仰出茂有之候通御勝手向不取細、諸向モ相ユルミ候故御入用モ相増御遺方御不足ニ相成候依之當亥年ヨリ來々丑年迄三ヶ年右金高ニ而一ヶ年之御用相濟候様致勘辨取斗可被

申候。委細之儀ハ御勘定奉行可被談候。右之通向々エ中渡候間被得其意可被談候』

又曰ク

『御勘定奉行エ

金千五百兩餘	淺草御藏方
金三千兩餘	銅瓦御買上代
金一万二千兩餘	飛州棟木材木元伐川下實
金五千兩餘	武州中津川山甲州雨畑山上州山中領信州遠山材木伐出入用
金二千兩餘	御普請役諸入用
金五千四百兩餘	在方品々小入用
金九千兩	川除御入用

當亥年ヨリ來々丑年迄三ヶ年右金高ニ而一ヶ年之御用相濟候様致勘辨取斗可被申候。』

是レ即チ當時ノ歲出額ヲ豫定セルモノニシテ、實ニ一種ノ豫算制度ノ存在セシコトヲ示スモノニ非スシテ何ソヤ。勿論之ヲ立法機關ノ協賛ニ俟テ爾現時ノ豫算制度ト對比セン乎、兩者ハ殆ント至ク其意義ヲ異ニシ、從テ日ヲ同シクシテ論ス可ラスト雖、カノ明治初年ニ行ハレタル見込會計表ノ如キモノニ比スレハ、兩者ハ必スシモ全然別個ノ觀念ニ支配セラルヘキニハ非ルカ如シ。兩者ノ間ニ於テハ自ラ精粗寬嚴ノ差アリ

又歳入出ヲ豫定スルト歳出ノミヲ概算セルトノ相違アリ、或ハソノ效力ノ一年ヲ限ルト三ヶ年ノ久シキニ亘レルトノ差異アリト雖、政府自ラ他ノ獨立機關ノ拘束ナクシテ之ヲ算定シ、之ニ基キテ支出ヲナスニ至リテハ即チ一也。彼ヲ以テ現時豫算制度ノ濫觴ト謂フ可クンバ、此ヲ目スルニ一種ノ豫算ヲ以テスル、亦不可ナキヲ信ズ。

カクテ寶曆五年ニ於テ一種ノ歳出豫算ヲ見ルニ至リタルモノナルガ、同七年十二月ニ御勘定奉行ニ對シ

『先達而御勝手向三ヶ年之内別而取締之儀被仰出候處諸向大方相届候。然處當夏ハ國々出水ニ付川口御普請多分之御入用ヲ以被仰付且在方夫食等數多有之領知損毛之面々拜借御手當等ニ而別而御入用モ多候付、猶又諸向ニテモ御入用致對辨彌減方相ニルミ不申可成タケ御入用相減候様可被相心得候』

ト令セルヲ以テ見レハ、豫定額ハ大體ニ於テ實際ノ支出ト甚シキ齟齬ヲ生スルコトナカリシナルヘク、又七年以後ニ於テモ年々豫定額ヲ公示スルコトナシト雖、暗々裡ニ於テ之ニ準據シ成ルヘク節約ノ方針ヲトリシコトヲ知ル可キ也。

(三) 降テ明和八年四月ニ至リ

『去實(明和七年)夏中御料所草損之國々多、御收納高格別相減、御勝手向御入用御遣方御不足ニ相成候ニ付、當卯年ヨリ來ル未年迄五ヶ年之間御儉約被仰出候ニ付、諸向一ヶ年御入用御定高左之通可被相心得候……(各費目豫定額略之)……右諸向御定高ニ而、一ヶ年之御入用相濟候様致勘辦取計可申候。差支候儀モ有之候ハ、翌年之金高繰越御入用ニ相定、其分ハ翌年御定内サ相減候様可取計候』云々(6)

ト命シ、五ヶ年間ノ歳出ヲ豫定スルト共ニ、超過支出額ハ翌年度支出高ニ繰込ムノ方法ヲ設ケタルモ、豫定額ニ大削減ヲ加ヘタルタメ、年々ソノ費用ヲ償ハサルニ至リ遂ニ安永七年六月ニ至リ經費ヲ増額シ年々ソノ定高ニ基キテ支出ヲナサシムルコトトナレリ(7)。今參考ノタメ以上三回ノ豫定額總高ヲ示サバ左ノ如シ。

寶曆五年定額。金十三萬八千四百七十兩餘

明和八年定額。金九萬三千百十六兩餘

銀 四百〇三貫四百八兩餘

米 七十五石九斗餘

安永七年定額。金十萬六千六百六十六兩餘

銀及米ハ明和八年定額ト同シ

其後文化八年十二月ニモ經費豫定額ノ一部ニ變

(4) 古事類苑。政治部三。997頁以下
(5) 古事類苑。同上。1001頁以下。徳川禁令考。三帙 259頁

更ヲ加ヘ(6)天保十四年ニハ『去寅年(天保十三年)御入用高之半減ヲ以、來辰年(十五年)ヨリ御取賄可被相立候』トテ經費半減令ヲ發スルニ至レリ(7)勿論此等ノ豫定額ガ實際ノ支出ニ當リテ、如何ナル程度マテ嚴守セラレタルヤハ明カナラズト雖要スルニ實曆以降ニ於テ經費省減ノ趣旨ヨリシテ『一種ノ豫算』ヲ設クルニ至リシコトハ之ヲ認メサルヲ得サル也。

(6) 古事類苑。同上。1003頁以下

(7) 徳川禁令考。三帙。261頁以下

* "Administration of Labor Laws and Factory Inspection in Certain European Countries," pp. 79, 139, 142, 145, 187, 222, 255 and 280. ニ據ル